

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 2025年度 決算説明

2026年1月28日

取締役常務執行役員 蛭川 初巳

- 本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
- 本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性あることをご承知おきください。

皆さま、こんにちは。蛭川でございます。

本日は大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

■ 決算のポイント	P.3
■ 業績サマリー	P.4、7
■ 営業利益分析	P.5、8
■ 業績 セグメント概要	P.6、9
■ 業績 セグメント情報	P.10～13
■ セグメント別 製品・サービス売上	P.14～15
■ 業績予想サマリー	P.16
■ 業績予想 セグメント概要	P.17
■ 業績予想 セグメント情報	P.18～19
■ 【補足資料】主要製品売上・台数	P.20
■ 財務指標推移 配当性向／EPS／配当	P.21
■ 株式分割、自己株式の取得について	P.22
■ 参考資料	P.24

それでは、2025年第4四半期決算と2026年業績予想についてご説明致します。

このアジェンダに沿って説明を進めてまいります。

決算のポイント

2025年12月期 第4四半期 業績概要

- ・対前年 増収増益。
- ・利益、利益率は四半期の過去最高を更新。
(営業利益、営業利益率、経常利益、経常利益率、純利益、純利益率)

2025年12月期 年間 業績概要

- ・5期連続の増収増益。
- ・営業利益、経常利益、純利益は過去最高を更新。

2026年12月期 業績見通し

- ・6期連続の増収増益を目指す。

トピックス

- ・年間配当額を1株当たり170円（配当性向45%）に増配。
- ・株式分割、自己株式の取得を決定。

3ページ目は、決算のポイントです。

4Qは、対前年で増収増益となりました。

利益については、営業利益、経常利益、純利益は四半期の過去最高を更新し、営業利益率、経常利益率、純利益率についても、四半期の過去最高を更新しました。

2025年の年間については、5期連続の増収増益となり、営業利益、経常利益、当期純利益については、過去最高を更新することができました。

2026年の年間の見通しについては、6期連続の増収増益を目指します。

続きましてトピックスです。

今回、年間配当額を1株当たり170円に増配することと致しました。

また同時に、株式分割と自己株式の取得を決定致しました。

こちらについては、最後に大里からご説明致します。

業績サマリー 第4四半期(10月～12月)

- ✓ 営業利益、経常利益、純利益が四半期の過去最高を更新
- ✓ 営業利益率、経常利益率、純利益率も四半期の過去最高を更新

(単位：億円)

	2024年 4Q	2025年 4Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,807	1,880	+72	+4%
売上総利益	578 (32.0%)	609 (32.4%)	+31 (+0.4pt)	+5%
営業利益	168 (9.3%)	200 (10.6%)	+32 (+1.3pt)	+19%
経常利益	171 (9.5%)	203 (10.8%)	+32 (+1.3pt)	+19%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	123 (6.8%)	142 (7.5%)	+18 (+0.7pt)	+15%

4ページ目は、4Qの業績サマリーです。

先ほどお伝えした通り、4Qは、対前年で増収増益となり、

営業利益、経常利益、純利益は、四半期の過去最高を更新しました。

また、営業利益率、経常利益率、純利益率についても、四半期の過去最高を更新しました。

売上は、「ITソリューション」、「キヤノン製品他」がともに堅調に推移したことにより、

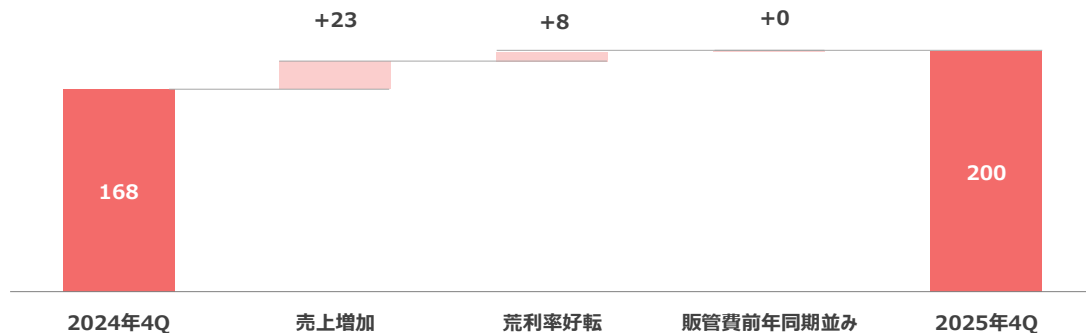
対前年4%増の1,880億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年32億円増の200億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、対前年18億円増の142億円となりました。

営業利益分析 第4四半期(10月~12月)

(単位: 億円)



荒利率好転

- エンタープライズセグメントで付加価値の高いITソリューションが堅調に推移したことや、プロフェッショナルセグメントで産業機器が好調に推移したことにより、荒利率が好転

※販管費の詳細についてはP.26をご参照ください。

5ページ目は、4Qの営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が23億円増加しております。

荒利率については、エンタープライズセグメントで付加価値の高いITソリューションが堅調に推移したことや、プロフェッショナルセグメントで産業機器が好調に推移したことにより、荒利率が好転しております。

販管費については、前年同期並みとなっております。

なお、4Qの販管費の詳細は26ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

業績 セグメント概要 第4四半期(10月～12月)

(単位：億円)

	2024年 4Q		2025年 4Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	463	56	474	57	+11	+2
エンタープライズ	683	63	686	70	+3	+7
エリア	588	50	619	62	+31	+12
プロフェッショナル	110	6	139	19	+29	+14
その他	△37	△6	△ 39	△ 9	△2	△3
合計	1,807	168	1,880	200	+72	+32

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。
 ※2025年より、「その他」にあったプリマジエストを「エンタープライズ」セグメントに移管したことに伴い、2024年実績を組替えております。
 ※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。

6ページ目は、4Qのセグメント別の実績概要です。

全てのセグメントで増収増益となりました。
 また、全てのセグメントで営業利益率が10%を超えました。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明致します。

業績サマリー 年間累計(1月～12月)

- ✓ 営業利益、経常利益、純利益は過去最高を更新
- ✓ 経常利益率、純利益率も過去最高を更新

(単位：億円)

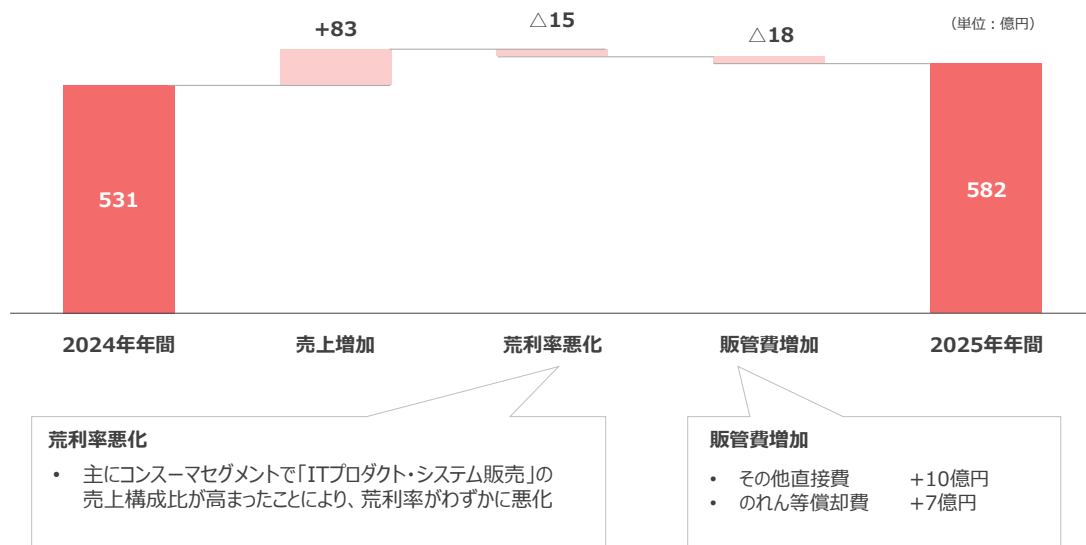
	2024年 年間	2025年 年間	前年同期比較	
			金額	率
売上高	6,539	6,798	+259	+4%
売上総利益	2,108 (32.2%)	2,177 (32.0%)	+68 (△0.2pt)	+3%
営業利益	531 (8.1%)	582 (8.6%)	+51 (+0.4pt)	+10%
経常利益	544 (8.3%)	598 (8.8%)	+54 (+0.5pt)	+10%
親会社株主に帰属する 当期純利益	393 (6.0%)	415 (6.1%)	+21 (+0.1pt)	+6%

7ページ目からは、累計の実績です。

2025年累計の売上は、
主にITソリューションが順調に推移したことにより、増収増益となり、
営業利益、経常利益、純利益は過去最高を更新しました。

また、経常利益率、純利益率についても、過去最高を更新しました。

営業利益分析 年間累計(1月～12月)



8ページ目は、2025年累計の営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が83億円増加しております。

荒利率については、主にコンシューマセグメントで「ITプロダクト・システム販売」の売上構成比が高まったことにより、荒利率がわずかに悪化しております。

販管費については、のれん等償却費の増加に加え、商談活動の活発化に伴うSE費用や物流費等のその他直接費が増加したこと等により、18億円増加しております。

なお、2025年累計の販管費の詳細は27ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

業績 セグメント概要 年間累計(1月～12月)

(単位：億円)

	2024年 年間		2025年 年間		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	1,446	138	1,448	130	+2	△7
エンタープライズ	2,499	194	2,658	211	+158	+17
エリア	2,313	183	2,403	223	+90	+40
プロフェッショナル	448	46	488	55	+40	+10
その他	△167	△29	△198	△38	△31	△9
合計	6,539	531	6,798	582	+259	+51

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。
 ※2025年より、「その他」にあったプリマシストを「エンタープライズ」セグメントに移管したことに伴い、2024年実績を組替えております。
 ※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。

9ページ目は、2025年累計のセグメント別の実績概要です。

売上は、全てのセグメントで増収となりました。

営業利益は、コンシューマセグメントで減益となりましたが、
エンタープライズセグメント、エリアセグメント、プロフェッショナルセグメントで増益となりました。

業績 セグメント情報 コンシューマ

- ✓ 売上高は、コンパクトカメラが増加したこと等により、増収
- ✓ 営業利益は、販管費の削減により、増益

(単位：億円)

	4Q実績 (10-12月)				年間累計実績 (1-12月)			
	2024年	2025年	対前年		2024年	2025年	対前年	
			金額	率			金額	率
キヤノン製品他	354	361	+7	+2%	1,081	1,042	△38	△4%
ITソリューション	109	113	+4	+4%	365	406	+41	+11%
売上高計	463	474	+11	+2%	1,446	1,448	+2	+0%
営業利益	56	57	+2	+3%	138	130	△7	△5%
利益率	12.1%	12.1%	+0.0pt	-	9.5%	9.0%	△0.5pt	-

※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。

■コンシューマ製品 (対前年伸び率)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
レンズ交換式デジタルカメラ (台数)	△15%	△12%	△25%	+19%	△7%
インクジェットプリンター (台数)	△14%	△8%	△14%	△0%	△8%
インクジェットプリンターカートリッジ (金額)	△7%	△7%	△5%	△9%	△7%

10ページ目は、コンシューマセグメントのご説明です。

4Qの売上は、製品供給の回復と新製品発売に伴いコンパクトカメラが増加したこと等により、対前年2%増の474億円となりました。
営業利益は、広告宣伝費等の販管費の削減により、対前年2億円増の57億円となりました。

(レンズ交換式デジタルカメラ)

レンズ交換式デジタルカメラについては、2025年11月に発売した「EOS R6 Mark III」等が増加したことにより、台数は対前年19%増となりました。

交換レンズについても、新製品の発売により、売上は大幅に増加しました。

(インクジェットプリンター)

インクジェットプリンターについては、市場は引き続き縮小傾向にあるものの、新製品を、2024年は3Q、2025年は4Qに発売した影響により、台数は前年同期並みとなりました。
インクカートリッジについては、プリントボリュームの減少等により、売上は減少しました。

(ITプロダクト)

ITプロダクトについては、メモリの供給制約や値上げへの懸念から、ポータブルSSD等のPC周辺機器や高性能PCが堅調に推移したことにより、売上は増加しました。

業績 セグメント情報 エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「キヤノン製品他」が微減となったものの、「ITソリューション」が微増となったことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益

(単位：億円)

	4Q実績 (10-12月)				年間累計実績 (1-12月)			
	2024年	2025年	対前年		2024年	2025年	対前年	
			金額	率			金額	率
キヤノン製品他	160	159	△1	△1%	596	594	△2	△0%
ITソリューション	523	527	+4	+1%	1,903	2,063	+160	+8%
売上高計	683	686	+3	+0%	2,499	2,658	+158	+6%
営業利益	63	70	+7	+12%	194	211	+17	+9%
利益率	9.2%	10.2%	+1.0pt	-	7.8%	7.9%	+0.2pt	-

※2025年より、「エンタープライズ」セグメントに属する一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を相替えております。※2025年より、「その他」にあったプロダクトを「エンタープライズ」セグメントに移管しました。

■ (ご参考) 主要関係会社実績 キヤノンITソリューションズ

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	4Q実績		増減率	年間累計実績		増減率	キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)					
	2024年	2025年		2024年	2025年		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間	
売上高	369	374	+1%	1,395	1,472	+6%	受注高	+7%	△2%	+4%	+3%	+3%
営業利益	36	47	+30%	141	158	+12%	受注残高	△13%	△13%	△12%	△11%	△11%

データセンター事業以外の受注残高は過去最高値

※2025年7月より、TCSをキヤノンITソリューションズへ合併したことに伴い、キヤノンITソリューションズの2024年7月～12月の実績を相替えております。

11ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

4Qの売上は、「キヤノン製品他」が微減となったものの、「ITソリューション」が微増となったことにより、対前年0.5%増の686億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、不採算案件の安定化に伴う荒利率の好転により、対前年7億円増の70億円となりました。

(キヤノン製品他)

「キヤノン製品他」については、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が続いていること等により、オフィスMFPの保守サービスおよびレーザープリンターカートリッジの売上は減少しました。

市場は縮小しているものの、複数の大型案件があったことにより、オフィスMFPの台数は大幅に増加、レーザープリンターの台数は増加しました。

これらの結果、「キヤノン製品他」全体の売上は対前年1%減となりました。

(ITソリューション)

「ITソリューション」については、前年同期に文教向けPCの大型案件があり、その剥落があったものの、製造業向けおよび金融業向けSI案件が好調に推移したこと等により、対前年1%増となりました。

業績 セグメント情報 エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「キヤノン製品他」が微減となったものの、「ITソリューション」が微増となったことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益

(単位：億円)

	4Q実績 (10-12月)				年間累計実績 (1-12月)			
	2024年	2025年	対前年		2024年	2025年	対前年	
			金額	率			金額	率
キヤノン製品他	160	159	△1	△1%	596	594	△2	△0%
ITソリューション	523	527	+4	+1%	1,903	2,063	+160	+8%
売上高計	683	686	+3	+0%	2,499	2,658	+158	+6%
営業利益	63	70	+7	+12%	194	211	+17	+9%
利益率	9.2%	10.2%	+1.0pt	-	7.8%	7.9%	+0.2pt	-

※2025年より、「エンタープライズ」セグメントに属する一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。 ※2025年より、「その他」にあったプリマジェストを「エンタープライズ」セグメントに移管しました。

■ (ご参考) 主要関係会社実績 キヤノンITソリューションズ

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	4Q実績		増減率	年間累計実績		増減率	キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)					
	2024年	2025年		2024年	2025年		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間	
売上高	369	374	+1%	1,395	1,472	+6%	受注高	+7%	△2%	+4%	+3%	+3%
営業利益	36	47	+30%	141	158	+12%	受注残高	△13%	△13%	△12%	△11%	△11%

データセンター事業以外の受注残高は過去最高値

※2025年7月より、TCSをキヤノンITソリューションズへ合併したことに伴い、キヤノンITソリューションズの2024年7月～12月の実績を組替えております。

【キヤノンITソリューションズ実績／受注高・受注残高】

7月にTCSをキヤノンITソリューションズへ合併したことに伴い、比較対象となる前年の3Qおよび4Q実績を組み替えております。

主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は、対前年1%増の374億円となりました。営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、不採算案件の安定化に伴う荒利率の好転により、対前年11億円増の47億円となりました。

受注高は、前年同期に文教向けPCの大型案件があり、その剥落があったものの、大型のIT基盤案件を獲得したことや、ランサムウェア対策ソフトやウイルス対策ソフト「ESET」等のセキュリティが好調に推移したことにより、対前年3%増となりました。

また、受注残高については、文教向けGIGAスクール案件があったものの、大型のデータセンター案件の売上への切替等により、対前年11%減となりました。なお、データセンター事業以外の受注残高は対前年1%増ですが、過去最高値を更新し、好調を維持しています。

【プリマジェストの状況】

グループ入りしたプリマジェストについては、前年同期に金融業向けの大型案件があり、その剥落により、4Qの売上は減少しましたが、ビジネスが順調に成長していることで、年間の売上は増加しています。また、グループ入り前から見込んでいたシナジーが発現し、4Qにおいても、金融業のお客さまで新規の案件を受注しました。

業績セグメント情報 エリア

- ✓ 売上高は、「キヤノン製品他」が微増となったことに加え、「ITソリューション」が好調に推移したことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、人件費等の販管費の減少により、増益

(単位：億円)

	4Q実績 (10-12月)				年間累計実績 (1-12月)			
	2024年	2025年	対前年		2024年	2025年	対前年	
			金額	率			金額	率
キヤノン製品他	409	412	+3	+1%	1,577	1,570	△7	△0%
ITソリューション	180	207	+27	+15%	736	833	+96	+13%
売上高計	588	619	+31	+5%	2,313	2,403	+90	+4%
営業利益	50	62	+12	+23%	183	223	+40	+22%
利益率	8.5%	10.0%	+1.5pt	-	7.9%	9.3%	+1.4pt	-

※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。

■ (ご参考) 主要関係会社実績
キヤノンシステムアンドサポート

	4Q実績		増減率	年間累計実績		増減率
	2024年	2025年		2024年	2025年	
売上高	266	288	+8%	1,077	1,146	+6%
営業利益	18	26	+43%	69	103	+50%

12ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

4Qの売上は、「キヤノン製品他」が微増となったことに加え、「ITソリューション」が好調に推移したことにより、対前年5%増の619億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、販管費の減少により、対前年12億円増の62億円となりました。

なお、販管費については、生産性向上の取り組みを進めていることにより、人件費等が減少しております。

(キヤノン製品他)

「キヤノン製品他」については、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が続いていること等により、オフィスMFPの保守サービスの売上は減少しました。市場は縮小しているものの、オフィスMFPについては、お客さまの業務効率向上に向けた提案活動を積極的に進めたことにより、台数は増加しました。レーザープリンターの台数ならびにレーザープリンターカートリッジの売上は大口の受注により、増加しました。また、オフィスでのプリント内製化に最適なimageFORCEのライトプロダクションモデルの販売が好調に推移しました。

これらの結果、「キヤノン製品他」全体の売上は対前年1%増となりました。

(ITソリューション)

「ITソリューション」については、Windows 10の延長サポート終了に伴うビジネスPCの入替需要が継続したことに加え、ビジネスPCと合わせて提案したランサムウェア対策ソフト、IT支援クラウドサービス「HOME」等のセキュリティや中小企業のサステナブル経営・DX推進をトータルで支援する「まかせてIT」の契約件数が増加したことで、対前年15%増となりました。

【キヤノンシステムアンドサポート実績】

主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年8%増の288億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年8億円増の26億円となりました。

なお、営業利益率は、「まかせてIT」を中心としたリカーリングビジネスが順調に推移していること等により向上しています。

また、SFA活用により営業活動を効率化したことで、お客さま1社当たりの売上金額が増加しています。今後もこの活動を強化してまいります。

業績 セグメント情報 プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、産業機器とヘルスケアの増加により、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益

(単位: 億円)

	4Q実績 (10-12月)				年間累計実績 (1-12月)			
	2024年	2025年	対前年		2024年	2025年	対前年	
			金額	率			金額	率
プロダクション プリンティング	31	27	△4	△14%	98	94	△5	△5%
産業機器	38	69	+31	+81%	182	203	+21	+11%
ヘルスケア	41	43	+3	+7%	168	192	+24	+14%
売上高計	110	139	+29	+26%	448	488	+40	+9%
営業利益	6	19	+14	+244%	46	55	+10	+22%
利益率	5.1%	13.9%	+8.8pt	-	10.2%	11.4%	+1.2pt	-

※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	4Q実績		増減 率	年間累計実績		増減 率
	2024年	2025年		2024年	2025年	
売上高	30	26	△14%	92	89	△4%
営業利益	1	1	+18%	4	4	+16%

13ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

4Qの売上は、産業機器とヘルスケアの増加により、対前年26%増の139億円となりました。
営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加等により、対前年14億円増の19億円となりました。

(プロダクションプリンティング)

プロダクションプリンティングについては、
前年同期に高速連帳プリンター案件が複数あり、
その剥落により、売上は対前年14%減となりました。

【キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ実績】

主要関係会社のキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は、
対前年14%減の26億円となりました。
営業利益は、荒利率の好転および販管費の削減により、対前年2千万円増の1億円となりました。

(産業機器)

産業機器については、半導体製造関連の検査・計測装置の大型案件があったこと等により、
売上は対前年81%増となりました。

(ヘルスケア)

ヘルスケアについては、複数の病院向け案件を獲得したこと等により、売上は対前年7%増となりました。

セグメント別 製品・サービス売上 第4四半期(10月～12月)

	コンシューマ		エンタープライズ		エリア		プロフェッショナル		その他		合計		構成比
	2024年 4Q	2025年 4Q	2024年 4Q	2025年 4Q	2024年 4Q	2025年 4Q	2024年 4Q	2025年 4Q	2024年 4Q	2025年 4Q	2024年 4Q	2025年 4Q	2025年 4Q
SIサービス (対前年)	-	-	186	210	21	22	41	44	△1	△3	247	273	31%
				+13%		+4%		+7%		-		+10%	
保守・運用サービス /アウトソーシング (対前年)	-	-	200	190	30	32	4	4	7	9	240	235	26%
				△5%		+8%		+5%		-		△2%	
ITプロダクト・システム販売 (対前年)	109	113	137	127	129	153	-	-	△10	△12	365	381	43%
		+4%		△8%		+19%		-		-		+4%	
ITソリューション合計 (対前年)	109	113	523	527	180	207	45	48	△4	△7	853	889	100%
		+4%		+1%		+15%		+6%		-		+4%	
キヤノン製品他 (対前年)	354	361	160	159	409	412	65	91	△33	△32	955	991	
		+2%		△1%		+1%		+41%		-		+4%	
合計 (対前年)	463	474	683	686	588	619	110	139	△37	△39	1,807	1,880	
		+2%		+1%		+5%		+27%		-		+4%	

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。
 ※2025年より、「その他」にあったプリマジェストを「エンタープライズ」セグメントに移管したことに伴い、2024年実績を組替えております。
 ※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。
 ※2025年7月に、「エンタープライズ」セグメントにあったT C SをキヤノンITソリューションズへ合併しましたが、継続性の観点から第2四半期までと同様の集計を行っております。

14ページ目は、セグメント別 製品・サービスの売上です。
 ここでは、ITソリューションの4Qの実績についてご説明します。

まずは、「SIサービス」です。
 エンタープライズセグメントにおいて、製造業向けおよび金融業向けSI案件等が好調に推移したことに加え、プロフェッショナルセグメントのヘルスケアにおいて、複数の病院向け案件を獲得したこと等により「SIサービス」全体は対前年10%増となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」は、エリアセグメントにおいて「まかせてIT」が順調に推移したものの、エンタープライズセグメントにおいて、プリマジェストで前年同期に金融業向けの大型案件があり、その剥落により、対前年2%減となりました。

「ITプロダクト・システム販売」は、エンタープライズセグメントにおいて、前年同期に文教向けPCの大型案件があり、その剥落があったものの、エリアセグメントにおいて、ビジネスPCの販売が大幅に増加したことや、ランサムウェア対策ソフトやウイルス対策ソフト「ESET」等のセキュリティが好調に推移したこと等により、対前年4%増となりました。

これらの結果、グループITソリューション全体の売上は、対前年4%増となりました。

セグメント別 製品・サービス売上 年間累計(1月～12月)

(単位：億円)

	コンシューマ		エンタープライズ		エリア		プロフェッショナル		その他		合計		構成比
	2024年 年間	2025年 年間	2024年 年間	2025年 年間	2024年 年間	2025年 年間	2024年 年間	2025年 年間	2024年 年間	2025年 年間	2024年 年間	2025年 年間	2025年 年間
SIサービス (対前年)	-	-	744	780	103	81	170	193	△10	△11	1,006	1,044	30%
保守・運用サービス /アウトソーシング (対前年)	-	-	664	723	116	123	14	15	12	15	806	877	26%
ITプロダクト・システム販売 (対前年)	365	406	494	560	518	628	-	-	△44	△81	1,333	1,513	44%
ITソリューション合計 (対前年)	365	406	1,903	2,063	736	833	184	208	△42	△77	3,146	3,434	100%
キヤノン製品他 (対前年)	1,081	1,042	596	594	1,577	1,570	265	280	△124	△122	3,393	3,364	
合計 (対前年)	1,446	1,448	2,499	2,658	2,313	2,403	448	488	△167	△198	6,539	6,798	

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。
 ※2025年より、「その他」にあった「プリマレスト」を「エンタープライズ」セグメントに移管したことに伴い、2024年実績を組替えております。
 ※2025年より、「エンタープライズ」セグメントにあった一部事業を「その他」に移管したことに伴い、各セグメントの2024年実績を組替えております。
 ※2025年7月に、「エンタープライズ」セグメントにあったT C SをキヤノンITソリューションズへ合併しましたが、継続性の観点から第2四半期までと同様の集計を行っております。

15ページ目は、年間累計のセグメント別 製品・サービスの売上です。

「SIサービス」が対前年4%増、「保守・運用サービス/アウトソーシング」が対前年9%増、「ITプロダクト・システム販売」が対前年14%増となり、グループITソリューション全体の売上は対前年9%増となりました。

業績予想サマリー

(単位：億円)

	2025年 年間 実績	2026年 年間 予想	増減	
			金額	率
売上高	6,798	6,850	+52	+1%
営業利益	582 (8.6%)	600 (8.8%)	+18 (+0.2pt)	+3%
経常利益	598 (8.8%)	607 (8.9%)	+9 (+0.1pt)	+1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	415 (6.1%)	420 (6.1%)	+5 (+0.0pt)	+1%

16ページ目は、業績予想サマリーです。

2026年を展望しますと、わが国の経済は、米国の通商政策の影響や国内の物価上昇が景気を下押しするリスクがあるものの、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されます。

当社グループは、引き続きキヤノン製品事業の更なる収益性強化を図るとともに、成長事業と位置づけるITソリューション事業の収益性向上を伴った売上拡大を図ることで、売上は対前年1%増の6,850億円、営業利益は対前年18億円増の600億円となる見込みです。

業績予想 セグメント概要 前年比較

(単位：億円)

	2025年 年間 実績		2026年 年間 予想		前年比較		
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上		営業利益
					金額	率	
エンタープライズ	2,658	211	2,754	224	+96	+4%	+13
エリア	2,403	223	2,355	223	△48	△2%	-
コンシューマ	1,448	130	1,426	130	△22	△2%	-
プロフェッショナル	488	55	490	50	+2	+0%	△5
その他	△198	△38	△175	△27	+23	-	+11
合計	6,798	582	6,850	600	+52	+1%	+18

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

17ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

2026年より、セグメントの並び順を変更することと致しました。

現在のビジネスの状況を踏まえ、エンタープライズ、エリア、コンシューマ、プロフェッショナルの順でご説明致します。

売上は、エリアセグメントとコンシューマセグメントで減収となりますが、エンタープライズセグメントとプロフェッショナルセグメントで増収となる見込みです。

営業利益については、プロフェッショナルセグメントで減益となりますが、エリアセグメント、コンシューマセグメントで前年並み、エンタープライズセグメントで増益となる見込みです。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明致します。

(単位：億円)

■ エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「ITソリューション」が堅調に推移することにより、増収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益を見込む

	年間			
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	対前年	
			金額	率
売上高	2,658	2,754	+96	+4%
営業利益	211	224	+13	+6%
利益率	7.9%	8.1%	+0.2pt	-

■ エリア

- ✓ 売上高は、前年のPC増加の反動による「ITソリューション」の減少により、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、販管費は増加するものの、荒利率の好転により、前年並みを見込む

	年間			
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	対前年	
			金額	率
売上高	2,403	2,355	△48	△2%
営業利益	223	223	-	-
利益率	9.3%	9.5%	+0.2pt	-

18ページ目は、業績予想をセグメントごとに説明致します。

まずは、エンタープライズセグメントです。
2026年は、増収増益を見込んでおります。

売上は、対前年4%増の2,754億円を見込んでおります。
営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年13億円増の224億円を見込んでおります。

「キヤノン製品他」については、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が継続することで、オフィスMFPの台数およびレーザープリンターカートリッジの売上は減少するものの、レーザープリンターの台数は複数の大型案件により増加することに加え、オフィスMFPの保守サービスは本体稼働台数の増加に伴い微増となる見込みです。
これらの結果、「キヤノン製品他」の売上は前年並みに留める見込みです。

「ITソリューション」については、前年に文教向けおよび金融業向けのPCの大型案件があり、その剥落があるものの、キヤノンITソリューションズにおいて金融業向けおよび製造業向けのSI案件が好調に推移することに加え、キヤノンマーケティングジャパンおよびプリマジェストにおいてBPOが順調に推移すること等により、売上は増加する見込みです。

■ エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「ITソリューション」が堅調に推移することにより、増収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益を見込む

	年間			
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	対前年	
			金額	率
売上高	2,658	2,754	+96	+4%
営業利益	211	224	+13	+6%
利益率	7.9%	8.1%	+0.2pt	-

■ エリア

- ✓ 売上高は、前年のPC増加の反動による「ITソリューション」の減少により、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、販管費は増加するものの、荒利率の好転により、前年並みを見込む

	年間			
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	対前年	
			金額	率
売上高	2,403	2,355	△48	△2%
営業利益	223	223	-	-
利益率	9.3%	9.5%	+0.2pt	-

次に、エリアセグメントです。

2026年は、売上は減収、営業利益は前年並みを見込んでおります。

売上は、対前年2%減の2,355億円を見込んでおります。

営業利益は、販管費は増加するものの、荒利率の好転により、前年並みの223億円を見込んでおります。

「キヤノン製品他」については、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が継続することに伴い、オフィスMFPの保守サービスやレーザープリンターの台数は減少するものの、ITソリューションと組み合わせた提案を積極的に進めることにより、オフィスMFPの台数は増加する見込みです。

これらの結果、「キヤノン製品他」の売上は微減に留める見込みです。

「ITソリューション」については、ランサムウェア対策ソフトやウイルス対策ソフト「ESET」などのセキュリティや中小企業のサステナブル経営・DX推進をトータルで支援する「まかせてIT」等が順調に推移するものの、Windows 10の延長サポート終了の影響で前年にPCの売上が大幅に増加したことの反動等により、売上は減少する見込みです。

(単位：億円)

■ コンシューマ

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラは増加するものの、ITプロダクトやインクカートリッジが減少することにより、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上は減少するものの、荒利率の好転により、前年並みを見込む

	年間		対前年	
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	金額	率
	売上高	1,448	1,426	△22
営業利益	130	130	-	-
利益率	9.0%	9.1%	+0.1pt	-

■ プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、産業機器が減少するものの、プロダクションプリンティングが増加することにより、微増を見込む
- ✓ 営業利益は、産業機器の売上減少に伴う荒利の減少により、減益を見込む

	年間		対前年	
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	金額	率
	売上高	488	490	+2
営業利益	55	50	△5	△10%
利益率	11.4%	10.2%	△1.1pt	-

次に、コンシューマセグメントです。

2026年は、売上は減収、営業利益は前年並みを見込んでおります。

売上は、対前年2%減の1,426億円を見込んでおります。

営業利益については、売上は減少するものの、荒利率の好転により、前年並みの130億円を見込んでおります。

レンズ交換式デジタルカメラについては、2025年に発売した「EOS R6 Mark III」等のミドルクラス以上のEOS Rシリーズの出荷が増加する見込みです。
また、ミラーレスカメラへの移行に伴いRFレンズの販売も拡大し、売上は増加する見込みです。

インクジェットプリンターおよびインクカートリッジについては、市場の縮小により、売上は減少する見込みです。

ITプロダクトについては、Windows 10の延長サポート終了の影響で前年にPCの売上が大幅に増加したことの反動に加え、メモリの供給制約に伴いPCの供給が不安定になることや価格上昇による需要減の懸念があり、売上は減少する見込みです。

(単位：億円)

■ コンシューマ

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラは増加するものの、ITプロダクトやインクカートリッジが減少することにより、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上は減少するものの、荒利率の好転により、前年並みを見込む

	年間		対前年	
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	金額	率
	売上高	1,448	1,426	△22
営業利益	130	130	-	-
利益率	9.0%	9.1%	+0.1pt	-

■ プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、産業機器が減少するものの、プロダクションプリンティングが増加することにより、微増を見込む
- ✓ 営業利益は、産業機器の売上減少に伴う荒利の減少により、減益を見込む

	年間		対前年	
	2025年 (実績)	2026年 (計画)	金額	率
	売上高	488	490	+2
営業利益	55	50	△5	△10%
利益率	11.4%	10.2%	△1.1pt	-

次に、プロフェッショナルセグメントです。
2026年は、増収減益を見込んでおります。

売上は、対前年微増の490億円を見込んでおります。
営業利益は、産業機器の売上減少に伴う荒利の減少により、
対前年5億円減の50億円を見込んでおります。

プロダクションプリンティングについては、高速連帳プリンター、高速カット紙プリンター等の拡販を進めることにより、売上は増加する見込みです。

産業機器については、半導体製造関連の検査・計測装置の案件が減少することにより、売上は減少する見込みです。

なお、当社では2026年に計画している案件については概ね受注済みであり、
現在は2027年以降に向けて積極的な提案活動を推進しております。

ヘルスケアについては、2026年も病院や診療所等に向けて複数の案件のサービスインを予定しており、
売上は前年並みとなる見込みです。

【補足資料】2025年4Q決算要約（売上・台数）

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

※単位：億円、百万台

項目	2025年4Q				2025年3Q				2025年2Q				2025年1Q				2024年4Q				
	売上	増減	増減率	台数	売上	増減	増減率	台数	売上	増減	増減率	台数	売上	増減	増減率	台数	売上	増減	増減率	台数	
売上総額	1,000	+10%	+10%	100	900	+5%	+5%	90	850	+2%	+2%	85	800	+1%	+1%	80	750	+3%	+3%	75	700
営業利益	150	+15%	+15%	15	130	+10%	+10%	13	120	+8%	+8%	12	110	+5%	+5%	11	100	+2%	+2%	10	95
経常利益	120	+12%	+12%	12	105	+10%	+10%	10.5	95	+8%	+8%	9.5	85	+5%	+5%	8.5	80	+3%	+3%	8	75
純利益	90	+9%	+9%	9	80	+8%	+8%	8	75	+6%	+6%	7.5	70	+4%	+4%	7	65	+2%	+2%	6.5	60

※本表は、2025年4Q決算要約（売上・台数）に基づき作成されています。詳細は、本決算説明会資料を参照してください。

当社ホームページに掲載されております
「2025年12月期第4四半期 補足資料 PDF」を
ご覧ください。

・掲載URL

<https://corporate.jp.canon/ir/library/explanation>



(当社トップページ>企業情報>投資家向け情報>IR資料>決算説明会資料)

20ページ目は、補足資料の「主要製品売上・台数」表についてご説明致します。
ホームページに掲載されておりますので、お手元にご用意いただければと思います。

4Q実績については、セグメント情報でお伝えしている通りです。
ここでは、セグメント情報でお伝えしていない「商業印刷」、「ネットワークカメラ」の実績について
ご説明致します。

4Qのグループトータルの「商業印刷」は、主に、エリアセグメントで、プリント内製化に最適な
imageFORCEのライトプロダクションモデルの販売が好調に推移したものの、
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上が減少したことにより、対前年1%減となりました。

次に、4Qのグループトータルの「ネットワークカメラ」です。
エンタープライズセグメント、エリアセグメントにおいて、ビデオ管理ソフトウェア「XProtect」等で
複数の大型案件を獲得したことに加え、エリアセグメントにおいて、中小企業向けのクラウド録画サービス
「VisualStage」シリーズ等が好調に推移したことにより、対前年7%増となりました。

当社ホームページに掲載されております
「2025年12月期第4四半期 補足資料 PDF」を
ご覧ください。

・掲載URL
<https://corporate.jp.canon/ir/library/explanation>



(当社トップページ>企業情報>投資家向け情報>IR資料>決算説明会資料)

次に、2026年の見通しについてご説明致します。

「レンズ交換式デジタルカメラ」、「インクジェットプリンター」、「インクジェットプリンターカートリッジ」については、セグメント情報でお伝えしている通りです。
年間計画については、それぞれ対前年3%増、4%減、4%減となる見込みです。

「オフィスMFP」は、準大手・中堅企業向けに業務プロセスの改革提案を強化するとともに、中小企業向けにITソリューションを導入しているお客さまへの積極的な提案活動を進めることで、対前年4%増となる見込みです。

「保守サービス」は、市場のペーパーレス化の流れを受けるものの、本体稼働台数の増加により、対前年1%減に留める見込みです。

「レーザープリンター」については、大手企業向けで大型案件を獲得することにより、対前年8%増となる見込みです。

「レーザープリンターカートリッジ」については、市場のペーパーレス化の流れを受けるものの、特定業種における新規の本体稼働台数の増加により、対前年2%減に留める見込みです。

グループ全体の「商業印刷」は、エリアセグメントにおいてimagePRESSで一部販売を終了する機種があり、その影響があるものの、キヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上が増加することにより、前年並みになる見込みです。

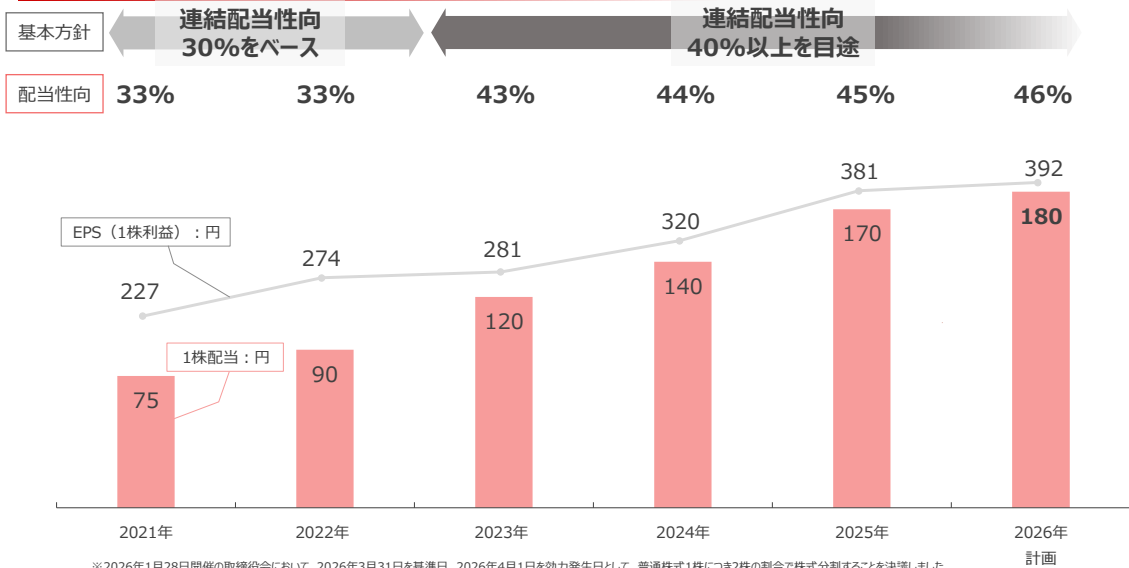
ネットワークカメラは、従来からの防犯や業務における映像利活用ニーズの高まりに加え、IoT機器のセキュリティ対策が急務になっていることで入替商談の増加が見込まれる等、市場拡大が予想されています。当社は、ビデオ管理ソフトウェア「XProtect」やクラウド型録画サービス「VisualStage」シリーズを積極的に提案することで、対前年15%増となる見込みです。

ITソリューションの状況については、本日後半の長期経営構想・中期経営計画の中で、社長の足立よりご説明致します。

「プロダクションプリンティング」、「産業機器」、「ヘルスケア」については、セグメント情報でお伝えしている通りです。

2025年第4四半期決算と2026年業績予想に関するご説明は以上となります。
この後は、大里からご説明させていただきます。

財務指標推移 配当性向／EPS／配当



経理を担当しております大里でございます。

私から、まず配当についてご説明致します。

当社は、利益配分に関して、連結配当性向40%以上を目標とし、中期的な利益見通し・投資計画に加え、そこから生み出されるキャッシュ・フロー等を総合的に勘案して配当を実施することを基本方針としております。

2025年は事業の成長に加え、自己株式の取得や政策保有株式の売却等の資本政策を積極的に実施した結果、EPSを大幅に上昇させ、381円とすることができました。

配当方針と2025年の実績を踏まえ、期末配当を、10月決算時の予想から10円引き上げ、「1株当たり100円」に修正することと致しました。これにより、当期の年間配当は「1株当たり170円」となり、前年実績から30円の増配と致しました。

また、2026年の年間配当予想は「180円」と致します。

株式分割

分割比率: 1対2

(当社普通株式1株につき、2株の割合を持って分割)

分割基準日: 2026年3月31日

効力発生日: 2026年4月1日

自己株式取得(市場買い付け)

取得価額総額 300億円(上限)

取得株式総数 500万株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.66%)

取得期間: 2026年2月2日~2026年10月30日

続いて、本日の取締役会において決議した、株式分割と自己株式の取得について説明致します。

まず、株式分割についてです。

東京証券取引所から、個人投資家が投資しやすい環境を整備するために望ましい投資単位として50万円未満という水準が明示されております。

現在、当社の株式の投資単位は50万円を超える水準で推移しており、株式の投資単位の金額引き下げにより投資家の皆さまにとってより投資しやすい環境を整えるとともに、株数増加による株式流動性の向上を目的として、分割比率1:2の株式分割を実行致します。

続いて、自己株式の取得についてです。

前回の中計期間には、約967億円、約2,250万株の自己株式取得を実施しました。先ほどもご説明しましたが、事業の成長に加え、政策保有株式の売却等も実施した結果、長期経営構想の目標であった、ROE10%を達成することができました。

今回は300億円の取得を実施します。

自己資本の圧縮により資本効率性を高め、ROEを向上させることを目的としており、取得期間は2月2日から10月30日で、市場からの買い付けを行います。

今後も、投資家の皆さまにとって魅力的な企業となれるよう、資本市場との対話を重視し、積極的な資本政策を実行することで、企業価値の向上を図ってまいります。

Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ

2025年第4四半期決算と2026年業績予想についてのご説明は以上となります。
ありがとうございました。

キャノンマーケティングジャパングループ IR Day

日時

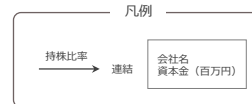
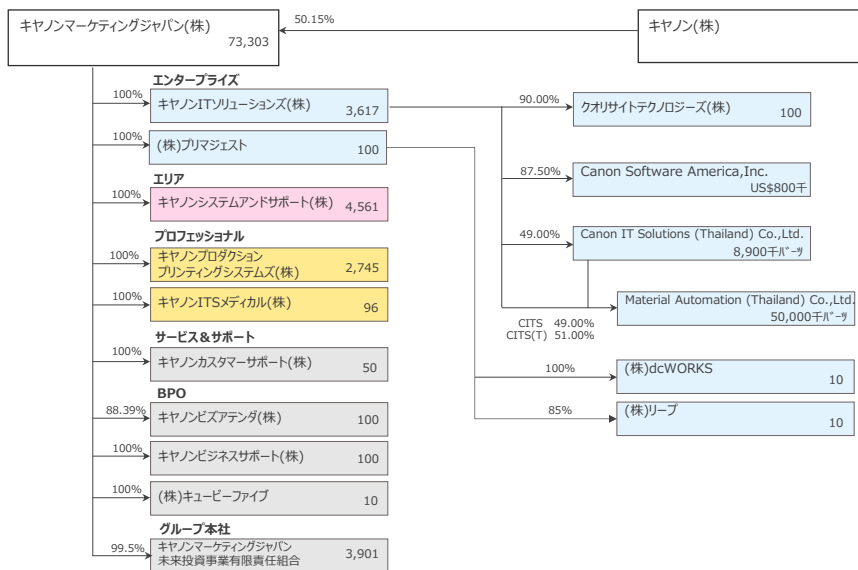
2026年3月4日(水) 14:00-15:45 Zoomウェビナーにて開催予定

アジェンダ

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| ■ 全体戦略 | 取締役 常務執行役員 蛭川 初巳 |
| ■ エンタープライズセグメントの戦略 | エンタープライズビジネスユニット長 常務執行役員 松本 裕之 |
| ■ エリアセグメントの戦略 | エリアビジネスユニット長 上席執行役員 山口 雅男 |
| ■ コンシューマセグメントの戦略 | コンシューマビジネスユニット長 常務執行役員 三上 公一 |
| ■ 質疑応答 | |

參考資料

関係会社出資関係図



2025.12.31 現在

販管費の内訳 第4四半期(10月~12月)

(単位：億円)

	2024年 4Q	2025年 4Q	増減
広告宣伝費	19	19	△0
販売促進費	8	9	+1
保証費	7	7	+0
その他直接費	50	51	+1
人件費	226	222	△4
拠点費用	23	22	△1
IT費用	29	28	△1
のれん等償却費	9	9	△0
その他販売費	39	43	+3
合計	409	409	△0

販管費の内訳 年間累計(1月～12月)

(単位：億円)

	2024年 年間	2025年 年間	増減
広告宣伝費	52	49	△3
販売促進費	31	31	+0
保証費	27	28	+1
その他直接費	184	194	+10
人件費	908	904	△5
拠点費用	84	89	+5
IT費用	111	108	△4
のれん等償却費	28	34	+7
その他販売費	152	158	+6
合計	1,577	1,595	+18

営業外収支の内訳

(単位：億円)

	2024年 4Q	2025年 4Q	増減	2024年 年間	2025年 年間	増減
受取利息	1	1	+0	4	5	+1
受取配当金	1	1	+0	4	3	△1
受取保険金	0	0	△0	5	5	+0
投資事業組合運用益	0	0	+0	1	5	+4
為替差益	2	1	△1	2	1	△1
その他	1	1	+0	2	3	+1
営業外収益 計	4	4	+0	18	21	+4
支払利息	0	0	+0	1	1	△0
投資事業組合管理費用	1	1	△0	2	2	+0
自己株式取得費用	0	0	+0	1	0	△0
その他	0	0	+0	2	2	+0
営業外費用 計	1	1	+0	5	5	△0

特別損益の内訳

(単位：億円)

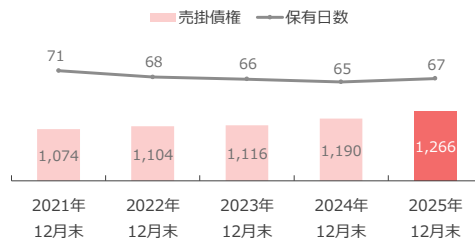
	2024年 4Q	2025年 4Q	増減	2024年 年間	2025年 年間	増減
固定資産売却益	0	0	+0	0	0	△0
投資有価証券売却益	0	1	+1	0	17	+17
関係会社株式売却益	-	-	-	29	-	△29
その他	-	-	-	0	-	△0
特別利益 計	0	2	+1	29	17	△12
固定資産除売却損	0	1	+0	2	1	△0
減損損失	-	-	-	-	5	+5
投資有価証券売却損	-	2	+2	-	2	+2
投資有価証券評価損	-	0	+0	-	0	+0
その他	-	0	+0	0	0	+0
特別損失 計	0	3	+3	2	9	+8

貸借対照表

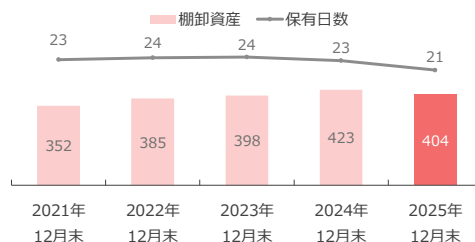
	2024年 12月末	2025年 12月末	増減
資産	5,246	5,644	+398
流動資産	3,322	3,396	+75
金融資産	1,107	1,601	+493
売掛債権	1,190	1,266	+76
棚卸資産	423	404	△20
その他	601	126	△475
固定資産	1,924	2,248	+324
有形固定資産	881	868	△13
無形固定資産	490	520	+29
投資その他	553	860	+308
負債	1,409	1,506	+97
流動負債	1,235	1,251	+15
買掛債務	501	521	+20
その他	734	730	△5
固定負債	174	255	+82
純資産	3,837	4,138	+301
株主資本	3,476	3,617	+141
(自己株式)	△93	△204	△111
その他の包括利益累計額	351	511	+160
新株予約権	1	1	+0
非支配株主持分	8	9	+1
株主資本比率	73%	73%	+0%

■ 売掛債権

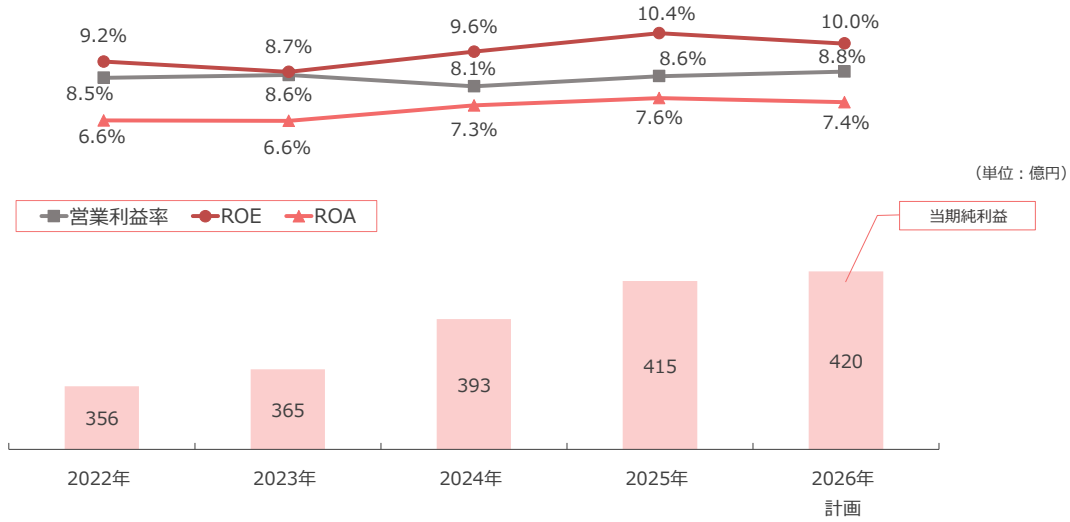
(単位：億円)



■ 棚卸資産



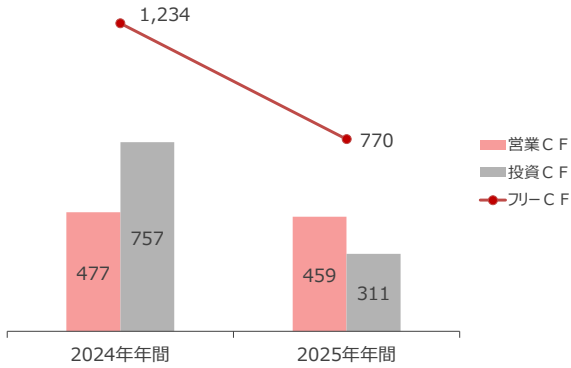
財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE



キャッシュ・フロー／設備投資／減価償却

(単位：億円)

■ キャッシュ・フロー



■ 設備投資

年間	
2024年 実績	128
2025年 実績	179
2026年 計画	275

■ 減価償却

年間	
2024年 実績	105
2025年 実績	121
2026年 計画	129

セグメント別売上構成（2025年度）

4 プロフェッショナル 

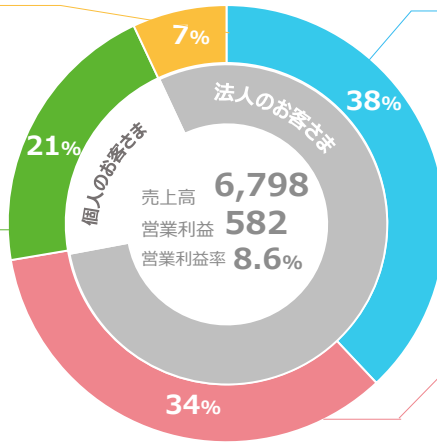
専門領域のお客さま
プロダクションプリンティング / 産業機器 / ヘルスケア

売上高	営業利益
488	55 (11.4%)

3 コスーマ 

個人のお客さま

売上高	営業利益
1,448	130 (9.0%)



1 エンタープライズ 

大手、準大手・中堅企業のお客さま

売上高	営業利益
2,658	211 (7.9%)

2 エリア 

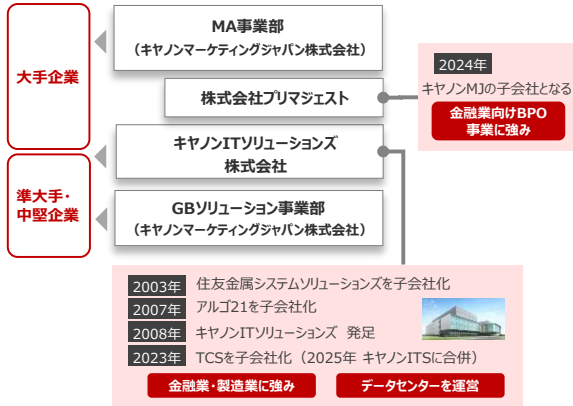
全国の中小企業のお客さま

売上高	営業利益
2,403	223 (9.3%)

※上記以外に、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等として、その他売上△198億円、その他営業利益△38億円があります。

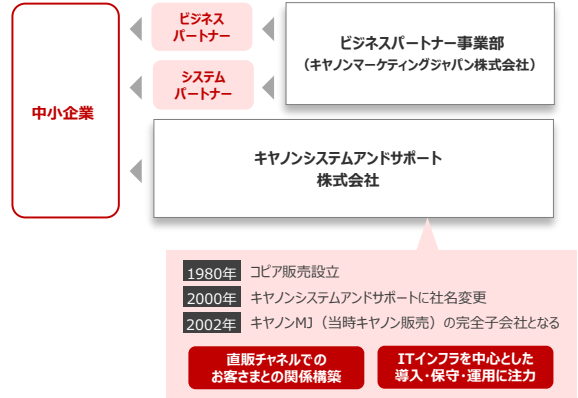
1 エンタープライズ

大手企業から準大手・中堅企業や官公庁、教育機関などの幅広いお客さま向けに、業種・業態ごとに異なる経営課題解決に寄与するキヤノン製品やITソリューション、BPO等を提供しています。



2 エリア

ビジネスパートナー、システムパートナーによる**間接販売**、キヤノンシステムアンドサポートによる**直接販売**からなる多様なチャネルを最大限に生かし、日本全国の**中小企業のお客さま**向けに、キヤノン製品やITソリューションを提供しています。



セグメント別 事業概要

3 コンシューマ

キヤノンの祖業であるカメラをはじめとするイメージング製品群・インクジェットプリンター等のキヤノン製品とキヤノンブランド以外のコンシューマユース向けプロダクトを、量販店やオンラインショップ等を通じて個人・法人のお客さまに販売しています。

カメラ事業



インクジェットプリンター事業



趣味、写真、在宅勤務

ITプロダクト事業



高性能PC



eスポーツ等に使用

4 プロフェッショナル

プロダクションプリンティング、産業機器、ヘルスケアといった、**各専門領域のお客さま**を対象とした製品やソリューションを提供しています。

産業機器

半導体製造関連



プラズマアッシング装置



外観検査装置

非半導体関連



X線分析装置



産業用3Dプリンター

プロダクションプリンティング

プロダクションプリンター



ProStream

カラーMプリンター



MJP20JXR

モノクロMプリンター

ソフトウェアサービス

ワークフローソリューション

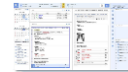
図面管理

Connect Works Manager

POPシステム

ヘルスケア

電子カルテ



調剤システム



※主に海外から仕入れて日本国内のお客さまにローカライズして販売、設置・保守まで行う

社外からの評価・指数への選定（ESG等）

FTSE4Good Indexに
選定



FTSE4Good

FTSE JPX Blossom Japan
Indexに選定



FTSE JPX Blossom
Japan Index

FTSE JPX Blossom Japan
Sector Relative Indexに選定



FTSE JPX Blossom
Japan Sector
Relative Index

Morningstar
日本株式ジェンダー・ダイバー
シティ・ティルト指数に選定
(GEグループ3)

JPX日経インデックス400に
選定



JPX-NIKKEI 400

MSCI日本株ESGセレクト・
リーダーズ指数に選定

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI日本株
女性活躍指数に選定

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

S&P/JPXカーボン・
エフィシエント指数に選定



SOMPOサステナビリティ・
インデックスに選定

2025



Sompo Sustainability Index

(*) THE INCLUSION OF Canon Marketing Japan Inc. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Canon Marketing Japan Inc. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ